

2015年1月15日掲載 物流ニッポン

第一貨物
トナミ運輸

共同運行を拡大

中部―関東で各1便

トナミ運輸（綿貫勝介社長、富山高岡市）と第一貨物（武藤幸規社長、山形市）は13日、中京・東海―関東で、特積輸送に関わる幹線便の共同運行を開始した。自社幹線便の共同化により、運行便の効率化を進める。

両社の関東に向けた各1便を共同運行化する。第一貨物の富士支店（静岡県富士市）の便に、トナミ運輸

富士支店（同）から5本の関東向け貨物を積載。もう1便は、トナミ運輸の小牧支店（愛知県大口町）の便に第一貨物小牧支店（小牧市）の関東向け貨物5本を積載する。

両社は、中京・東海―関東の共同運行が軌道に乗り次第、土・日曜日の運行効率化に向け、共同化の拡大を検討。更に、ターミナル施設の共用利用や共同配達

などを実現する。

トナミ運輸、第一貨物、久留米運送（二又茂明社長、福岡県久留米市）の3社は、2012年に合弁会社（JTL社、ジャパン・トランス・ライン）を設立し、東京―関西で幹線便の共同運行を開始。その後、共同運行・共同化推進に向けた話し合いを進めてきた。

（高木明）